

介護老人保健施設での 言語聴覚士の役割 ～QOLにつながる食事～



鈴木菜穂 [すずき・なほ]

介護老人保健施設なでしこ（埼玉県）

はじめに

近年、老健施設にも言語聴覚士が配置される施設が増え、リハビリの需要も高まってきています。言語聴覚士の主な仕事は摂食嚥下リハビリで、それに加えて言語聴覚療法、認知症へのアプローチなども行います。

私が入職したきっかけは、当施設が在宅復帰に力を入れており、それに向けて多職種の職員とご家族が連携し、ご利用者一人ひとりに対して真摯に向き合っているところに魅力を感じたことです。また自分がこれまで働いてきた他の老健施設、デイケア、訪問リハビリなどでの経験を活かすことができると思いました。

ご利用者と関わっていると「食事が楽しみ」と話される方の声が多く聞かれます。食事は生きるためのみならず、満足のいく食事はQOLの向上につながると私は考えます。そこで今回、私が当施設で取り組んでいることについてご紹介いたします。

施設の取り組み

当施設は「家庭的で明るく、笑顔を大切に、ご利用者が安心した生活が送れる施設を目指す」を理念として掲げています。常によりよい医療・福祉サービスの提供を行い、ご利用者を「人生の先輩」として敬う気持ちを大切にしています。

機械的なサービスを提供するだけの施設ではなく、「人生の先輩方に楽しく充実した生活を送っていただける」、「医療機関として地方にいらながらも最先端の医療技術を提供できるような体制を整える」、これらに施設職員一丸となって取り組む施設をめざしております。

食事は、ただ生きるための栄養補給ではない

私自身「食べること」がとても好きです。人生のなかで限られている食事の回数だからこそ、その1回1回の食事をとても大切にしています。「何を食べるか」だけでなく、「どのように食べるか」、「どんな環境で食べるか」など、毎回の食事が当たり前にならないよう常に考えて食事を「人生の楽しみ」としてとらえています。

そんな私が言語聴覚士として当施設で力を入れている仕事の内容の1つが、摂食嚥下リハビリです。

● 摂食嚥下リハビリの目的

厚生労働省2022年人口動態統計によれば、誤嚥性肺炎は死亡原因の第6位と報告されています。誤嚥性肺炎は特に高齢者に多い病気です。生理的な加齢変化に伴い、筋力低下や安静時の喉頭の位置が著しく下がることなどにより嚥下機能の低下が起こり、食物をうまく飲み込むことができず誤嚥することで、肺炎の発症につながります。

摂食嚥下リハビリの目的は、誤嚥性肺炎を予防するため、また、ご利用者がより安全で快適に食事を行うことができるように支援するためであり、QOLの向上を図ることです。

● 多職種連携による摂食嚥下リハビリ

摂食嚥下リハビリは言語聴覚士1人で行えるものではありません。多職種が連携し、ご利用者一人ひとりの安全な食事摂取を支援します。関わる職種は医師、看護師、調理師、介護職、管理栄養士、理学療法士、作業療法士などです。

医師は嚥下リハビリにあたるよう指示を出し、看護師は日ごろの体調管理、介護職は日常的な食事介助の情報や具体的な様子について、管理栄養士は食事